

VOI. 86

平成27年秋号

季刊

ほのほの倶楽部



小平市長百歳訪問の日 左から 三浦 ふみよ様・小方 フク様・半澤 芳様

多摩済生園の地域連携活動について

施設長 中村与人

平成 27 年度上半期事業経過報告

傾聴ボランティア—私のセカンドライフ

大塚みち代

ダイアリー&メモリー

第 6 回いちょう祭りのご報告

オレンジカフェ開店

介護・医療連携推進会議議事録(抄)

発行

2015(平成 27)年 11 月 20 日

発行者

社会福祉法人多摩済生医療団

多摩済生園・多摩済生ケアセンター

施設長 中村 与人

東京都小平市美園町 3-12-1

電話：042-343-2291

多摩済生園の地域連携活動について

施設長 中村 与人

先の国会で、例の安保法の影響で継続審議となつた法案の一つに「社会福祉法等の一部改正案」なるものがありました。その中身はというと、福祉人材の確保と育成の促進を図ることと社会福祉法人制度の見直しと改革を図ることを2本の柱とし、後者は具体的には次の事項により社会福祉法人に一層の自己改革と「社会貢献」を迫る内容になっています。

- (1) 評議員会を議決機関として設置することなどによるガバナンス(統治)の強化
- (2) 財務諸表・事業報告書の開示等による透明性の確保
- (3) 財務規律の強化といわゆる内部留保の計画的再投資
- (4) 地域における公益的取組の責務化等々です。その中で我々社会福祉法人が、特に皆で対応を検討している事項が、地域の公益的取組みの中身についてです。

この項目の趣旨は、社会福祉法人は税制面で優遇を受けているので、社会に貢献する事業を更に行い地域に還元するように、ということのようです。思えば上がりではないのですが、社会福祉法人は皆少なからず、地域の公益的活動に、これまで

も取り組んできていると思います。当施設においても地域と連携した活動を以前から行ってきたりしますが、今回はその内の二つを紹介させていただきます。

障がい者雇用の一助として「障がい者の就労前訓練としての場を提供」

以前より当施設では、障がい者雇用に取り組んできました。更に地域のニーズに合わせるべく、最寄の「障害者就労生活支援センター」と連携を深め、障がい者の就労前訓練の場として当施設を提供しています。その大まかな内容は以下の通りです。

○意義：こだわりとして、まずは、特養の現職員体制・高齢者入居施設として大きな負荷なくできること！↓無理な、特別な対応をとることなく。
○就労支援の一環なので、企業就職前の就業訓練として、できるだけ実際の就労に近い形での受入れを行う。

- ・職員と同じ通用口から出入り
- ・タイムカードを始業、終業時に押す
- ・作業工賃相当額を当施設が負担する
- ・その他、掃除用具他、専用休憩室等の提供
- ・一日九時～十七時、土日祝日は休み、人数は五～六名程、保清作業を行う。

*ここがポイント！実際には知的・精神障がい者

のみでの受入れは正直困難。就労支援センターの職員が必ず一名来て、就労指導を行っている！一日に仕事をする人数(就業時間も個人別)は、就労支援センターに任せている。訓練生の人数に応じ作業工賃相当額を委託費として支払う。(月8～10万円になる！)

施設内外の日常の保清(清掃)作業は、もちろん訓練生だけではカバーできないので、他に直接雇用の専任職員を配置し、かつ定期の床、ガラス磨きは専門の業者に委託していますので、障がいのある方たちには、専ら施設の廊下等共用部を中心にやり易い所を行ってもらっていることになりました。

この取り組みを行ってから五年以上経ちますが、就労支援センター職員と話し合い、改善しながら進めており、障がい者の方々が着実に就労につながっているとのこと。一般就労された方はもちろん、何より、多摩済生園の直接雇用にも繋がっています。これまで直接雇用した方は五名以上、現在も三名の方が職員として働いております。まさにwin winの関係であると言えます！

地域高齢者の生きがい作りの一助として「地域高齢者のふれあいの場を提供」
〈小平市社協との連携事業〉

地域の一人暮らしの高齢者の生きがい作りの一環

として、平成四年より小平市社協からの委託を受け「ふれあいのまちづくり事業」が、市内唯一の事業として多摩済生園で始まりました。当初は年数限定で人件費一名分の半分を社協が持ち、スタートしましたが、数年後、社協としての事業終了入人件費打ち切りとなり、その後は園の独自事業として継続してきました。現在は形を変え、小平市社協との連携事業として行っています。その内容は以下の通りです。（小平市社協ホームページより）

○ふれあい交流会（多摩済生園での呼び名）小平市社協事業名での「ほのぼのひろば」

○事業内容

・日頃交流の少ない高齢者を対象に身近な地域で気軽に集える場として、市内の十五ヶ所の地域センター等を利用して趣味・創作活動などを行っています。ボランティアと民生委員児童委員が協力して、自宅にひきこもりがちな高齢者の生きがいの場となることを目的として運営されています。

○対象者

・おおむね六十歳以上の市民
・ひとりで通うことができ、介護を必要としない方

○費用 実費二百〜三百円（お菓子・お茶代）

○多摩済生園での主な内容

・月一回 第三金曜日 十四時〜十五時半
・内容く小物作り、健康体操、会食会、他
・利用者約二十五名、スタッフ十七名
・小平市社協より年、四万円の運営補助費あり
・当施設の主な関わりとしては、場所の提供、連携職員の配置、印刷物準備、会食会での食事提供等々。

◇スタッフ（民生委員）からの声として

・他との違いは、特養と直接連携して行っていること！

↓連絡調整、印刷、会場準備等々での協力体制は他ではできない。そのことで、利用者、スタッフの規模が他より大きい！

本活動は、二十年以上となりまます。民生委員他、地域のボランティアさん等々との繋がりが常にあり、そのことが、この事業の拡充だけでなく、小中学校の職場体験受入れ、職業講話、交流事業等の正に地域連携活動に発展しております。

また、事業が長く続いているので、本活動の利用者さんが、ヘルプ・デイサービスにつながり、



↑多摩済生園での活動風景
〈小平市社協ホームページより〉

更にショートステイ、特養入所となるケースも増えてきています。現在は地域包括支援センター職員が始めから関わりますが、同支援センターができる以前から、特養で「地域包括支援的業務」を行っていたといっても過言ではないと自負しております。

今年度の第六十四回東京都社会福祉大会にて、小平市社協がこの事業で表彰されることと正式に決まりましたらまたご報告させていただきます。



たまさい秋色

上半期の事業経過報告

去る18日の法人評議員会・理事会に上半期の事業成績について「平成27年度上半期事業並びに予算執行状況報告書」として報告させていただきました。

4月に続き8月に介護報酬は全体では、介護職員処遇改善加算を除くと4.48%下がるといわれていました。一方では2割負担制や従来棟の室料の値上げ、補足給付額の引き下げ等により一部利用者には大幅な負担増をお願いすることとなりました。そのようななか、特養、ショートステイからデイサービス、訪問看護、介護、給食に至る全サービスにわたりフル稼働がおこなわれ、予算をほぼクリアし、下半期につなげることができたこと、皆さまのご理解、ご支援のたまものと感謝し、以下そのあらましをご報告いたします。

平成27年度上半期事業経過報告

(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

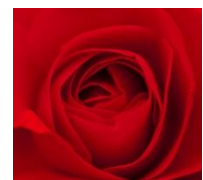
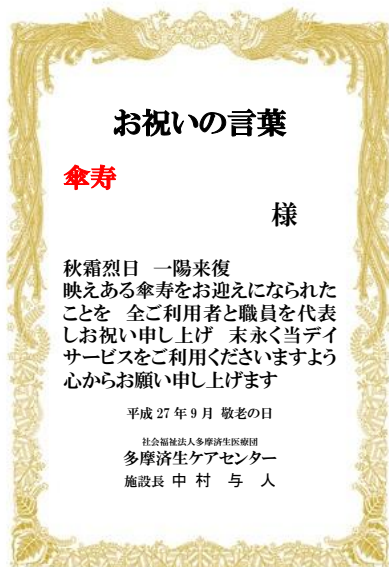
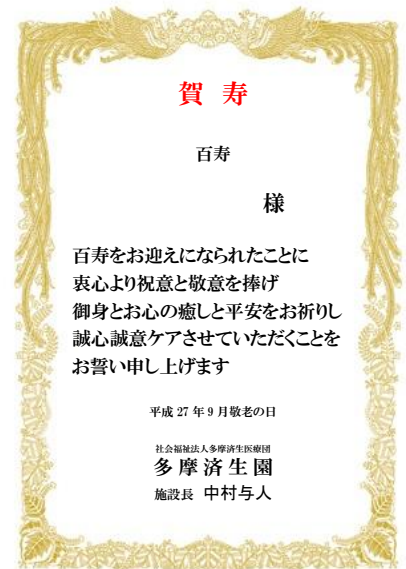
多摩済生園・多摩済生ケアセンター													
	多摩済生園									多摩済生ケアセンター			
	特別養護老人ホーム			ショートステイ			小平市高齢者訪問給食サービス			通所介護・認知症対応型通所介護			
	計画・予算	半期実績	前年同期	計画・予算	半期実績	前年同期	計画・予算	半期実績	前年同期	計画・予算	半期実績	前年同期	
4～9月(人)	27,450	27,762	27,659	1,373	1,652	1,641	4,900食	5,357	4,612	5,871	6,383	6,381	
1日当り(人)	150.0	151.7	151.1	7.5	9.0	9.0	27食	29.3	25.2	33.8	35.6	40.6	
1人1日介護報酬等(円)	12,492	13,830	12,877	11,123	11,734	11,368	830	846	846	10,725	10,585	10,435	
	多摩済生ケアセンター												
	訪問介護			定期巡回・随時対応型訪問介護看護			訪問看護ステーション			居宅介護支援 介護予防居宅介護支援			
	計画・予算	半期実績	前年同期	計画・予算	半期実績	前年同期	計画・予算	半期実績	前年同期	計画・予算	半期実績	前年同期	
4～9月(人・件)	7,540	9,201	9,182	1,281	916	—	1,305	1,588	1,256	2,586	3,039	2,735	
1日(月)当り(人・件)	41.2	50.3	50.2	7	5.0	—	10	12.1	9.2	392/月	506.5/月	456/月	
1人1日介護報酬等(円)	3,508	3,296	3,402	4,733	7,297	—	7,411	7,705	7,337	8,437/月	7,305/月	7,605/月	

職員

※9月末日現在数、小文字は非常勤実人員

	施設長	医師	生活指導員	看護師	准看護師	介護支援 専門員・社会福祉士	介護職員	内・介護 福祉士	機能訓練 室員	(管理)栄養士	調理士 (員)	営繕・家 政・運転係	事務員	計
多摩済生園		4	3	3	1	5	1	61	15	44	2	2	2	87
通所介護			1		2	2	7	7	6	6	2	1	2	10
訪問介護						(2)	6	32	5	13				6
訪問看護				4	1								3	4
居宅介護支援事業所						5								5
地域包括支援センター				1		5	2							6
計	1	4	4	8	4	5	3	10	2	74	54	55	21	4
採用				1		(1)	5	2	4	0			2	1
退職				1			4	3	0				1	6

- 4月 介護報酬(利用者負担金)改定/職員入職式/新入職員歓迎会(1日)/各種介護サービス給付費算定に係る変更届出書;都保健福祉財団、小平市高齢者福祉課(9日)/監事監査(27日)/介護職員処遇改善加算に係る平成27年度計画書;都、市(28日)/隔月誌「認知症ケア最前線」(関QOLサービス刊)「認知症の方への一環境整備の工夫」寄稿連載(4月5日Vol.50～28年2月5日Vol.54)
- 5月 デイ・ひまわり日曜オープンへ(3日～)/職員定期健診(7～20日)/監事監査(19日)/家族茶話会(24,31日)/評議員会・理事会;平成26年度事業報告書・決算書案(26日)/消防設備定期点検(26～28日)
- 6月 平成26年度経営支援補助金実績報告書(4日)/社会福祉施設調査票提出:都福祉保健局(3日)/認定訪問看護師養成校通学支援1名(12日～28年2月末迄)/職員交流食卓会(15,18日)/第2回介護医療連携推進会議(18日)/自衛消防隊訓練審査会出場;第3位(26日)
- 7月 納涼会(19日)/平成27年度経営支援補助金交付申請書(30日)
- 8月 介護報酬第2次改定:従来型棟施設サービス費、居住費、及び負担割合、補足給付額等改定、変更(1日)
- 9月 小平市訪問介護事業所連絡会(10日)/小平市長百歳訪問;3名様(15日)/敬老会(20日)/デイサービス敬老会(15～21日)/第3回介護医療連携推進会議(17日)/訪問介護員前期研修(15日)/東社協高齢者福祉研究大会「アクティブ福祉in東京」口演発表(29日)
- ◆研修受入 人事院初任者研修3名×10日=延30名(6月1～12日)/教員養成校介護体験;5校計52名×5日間=延260名(8月10日～9月30日)/社会事業大、早稲田速記医療福祉専門学校等大学専門学校実習延129名/都立小平南高校職場体験6名×3日間=延18名
- ◆寄付金 3名様;1,200,000円



傾聴ボランティア—私のセカンドライフ 大塚 みち代

毎週火曜日、弁当持参で多摩済生園ユニット『勿忘草』におじやまするようになって七年。今ではすっかり私の一週間の生活リズムになつていこうえ、退職後の貴重な社会参加の場ともなつていこう。

傾聴ボランティアとは何をするのか：極めて大雑把に言うと、利用者さんの話し相手。しかし、実情は多岐にわたる。

季節の風物、世の中の出来事等、外の風を、自由に外出できない利用者さんへ届けるのが、外から来るボランティアの大事な役目だと考える。挨拶の後、対話を展開するきっかけにもなつていこう。いつか農産物直売所で求めたとうもろこしを持参したことがあつた。皮をむきながらそれぞれ得意料理に話が發展し盛り上がったのは楽しい思い出の一つだ。

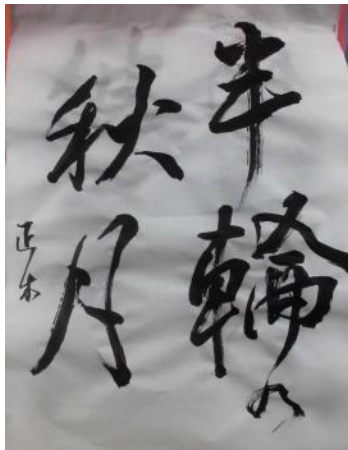
一方言うまでもないことだが、ボランティア活動にはその位置づけ上制約がある。それ故利用者さんの要求に直ちに応えられないことがある。その場合、目の前の状況をありのまま受け止めること。そのうえで、職員の方々にその旨伝えたり、ボランティアの活動範囲について説明し、理解を

求めることで対応していこう。

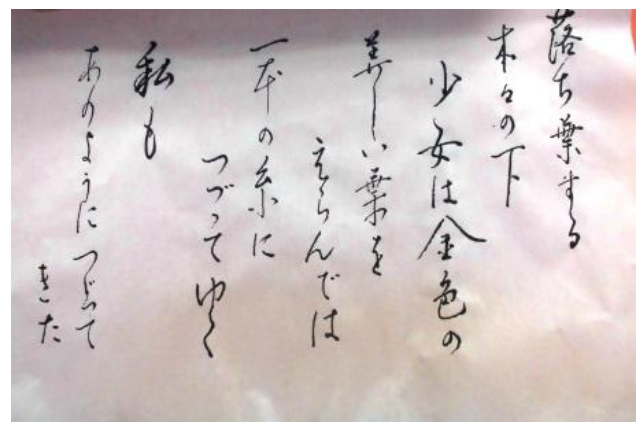
ボランティアをしていこうと言うと多くの人々が、「他人のためにえらひ。」とおつしやる。しかしボランティアは他人のためならず、自分自身のために他ならないと確信していこう。その理由は冒頭に述べたとおりである。

これまでの活動を通して、人生の先輩方から人生哲学、生活の知恵を始め多くのことを学ばせていただけていこう。

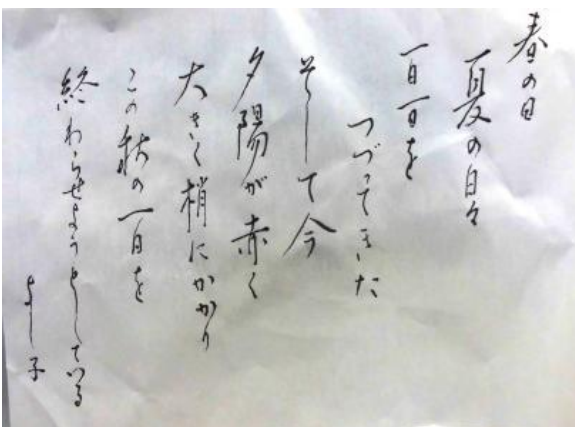
「ありがとう。」の言葉を背に施設を後にするとき「私の方こそありがとう、です。」と返す。



書道倶楽部
正木 志げ様 (102 歳)



清水 好子様 (95 歳)



第6回いちよう祭りのご報告

収益金をネパール震災へ

小春日和に多摩済生の銀杏並木が落ち葉を始めた11月15日の日曜日、第6回ケアセンターいちよう祭りが200名を超える来場者とボランティアの方々をお迎えし催されました。デイサービスご利用者の陶芸、手芸作品の展示販売や、ミニバザー、

軽食・喫茶コーナーでの収益金106,490円は、7月の多摩済生園納涼会での収益金205,810円と合算、合計312,300円をユニセフ日本協会を通じて4月のネパール大地震被災地に送金させていただきました。ありがとうございました。



桐朋学園大学の皆さん



小平市立第七小放課後教室・吹奏楽部の皆さん



舞華の皆さん



オープン

たまさいオレンジカフェ開催

認知症の方とご家族、地域の人が集える「認知症カフェ」が各地に広がっています。多摩済生ケアセンターでも、今年度はお試しますが、次の日程で「たまさいオレンジカフェ」を開催します！来場された方には、「脳トレミニ冊子」をプレゼント！！

10月12日(月・祝) / 11月3日(日・祝)
11月23日(月・祝) / 12月23日(水・祝)

●午後1時～3時30分まで
 ●小平市地域包括支援センター
 多摩済生ケアセンター喜平橋出張所
 上水南町2～23～20(喜平橋交差点前)

「オレンジカフェ」は認知症カフェの小平市内共通の呼称です。認知症サポーター養成講座のオレンジリングが由来です。
 問合せ：小平市地域包括支援センター多摩済生ケアセンターまで！
 ☎042(349)2123

定期巡回・随時対応型訪問看護事業所たまさいケア24 第3回介護・医療連携推進会議 議事録(抄)

日 時 平成27年9月17日(木) 17時～18時
 場 所 多摩済生園4階集会室
 出席者 9名、欠席2名(ご利用者、ご家族)

議 事

施設長の挨拶に引き続き、前回議事録の確認、直近の事業実績、経過報告がおこなわれ、質疑と意見交換がおこなわれた。

事業実績・経過報告

27年4月～8月末定期巡回延件数1,732回(1日当たり11.3回)、延訪問時間776.7時間(1回当たり0.5時間)、随時対応件数57件(内、随時対応26件)、8月末日現在実利用者5名(内、連携による訪問看護利用者3名) 利用者・家族からの声(省略)

意見交換

■実績報告書のデータが、例えば1回当時間0.4時間)の表記等分りにくい、利用者のご家族も出席される会議などでも少し見易く、定時巡回、随時対応サービスの実態、実績のものと「見える化」を図るべきです。

■利用者数7名の計画になかなか届かない。市は「柏モデル」を基にこの事業の推進を考えているようです。その意味でも市内医師会のネットワークへの働きかけが必要ではないでしょうか。

■訪問回数を減らすことに対して家族から苦情を受けた件について

※状態に改善がみられたため定時訪問の回数を減らす提案をケアマネを通してさせていただいたのですが、ご家族への説明が不十分のため市への苦情となりました。当所から直接お話しし、当面従前どおりの訪問を続けることとなりました。
 ※状態安定した場合のサービスの最終や変更、他サービスの移行など、そのタイミングが難しいと思われれます。(精神科における退院から訪問看護への移行のケースでは、入院中の人間関係が構築されているだけに特に難しい)受入れのキャパにも自ずと限りがあるので、利用のニーズが増えれば当然ケアが必要になって来ると思われます。

■介護、看護ともしっかり態勢を整え、利用者増につなげて行きたいと思えます。

閉 会

次回開催日、12月17日(木)午後5時を確認し閉会した。

■8月 介護報酬第2次改定、利用者負担合、補足給付額等改定(1日)

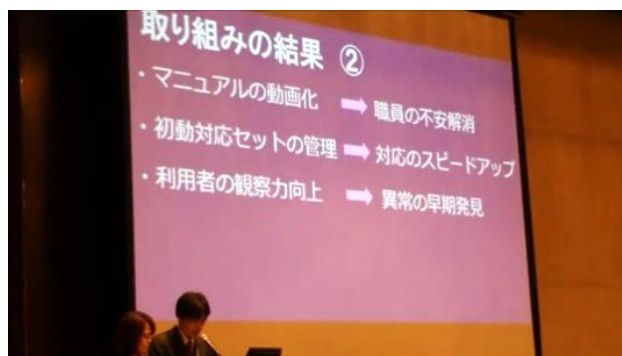
■9月 小平市長百歳訪問 写真Ⅱ表紙及び4ページ(15日)／敬老会 写真Ⅱ4ページ(20日)／デイサービス敬老会写真4ページ(15~21日)／第3回介護・医療連携推進会議 議事録Ⅱ6ページ(17日)／ふれあい交流会(18日)／訪問介護事業所前期研修会(15日)／東京都社会福祉協議会高齢者福祉研究会「アクティブ福祉 in 東京」口演発表 写真Ⅱ下(29日)

■10月 東京都社会福祉協議会・高齢者福祉施設北北ブロック介護職員研修会「排泄ケアについての情報交換会」・於当園 写真Ⅱ下(7日)／第三者評価機構受審(12日)／小平市立第七小学校5年生100名来園(15日)／同小学校交流授業 写真Ⅱ下(24日)／物故者慰霊祭(28日) 監事監査(29日&11月9日)

■11月 インドネシア訪問団(社会事業大学同道)視察見学 写真Ⅱ下(16日)／小平消防署長、火災予防協力者表彰Ⅱ多摩済生園自衛消防隊(12日)／全国老人福祉施設大会・於両国国技館参加(11~13日)／いちよう祭りⅡ写真6ページ(15日)／第71回評議員会・第222回理事会(18日)



11月16日 インドネシア国立福祉教育研修センター長他13名の方々が社会事業大学社会事業研究所長等に同道され視察、訪問されました。



「アクティブ福祉 in 東京」にて口演発表をおこないました。
①「人生最後の時間を大切に 全力で支援する」
②「感染症対策委員会による2年間の取り組みと成果」
9月29日京王プラザホテル



10月7日 東京都社会福祉協議会・高齢者福祉施設協議会北北ブロック介護職員研修会「排泄ケアについての情報交換会」が当施設を会場に開催されました。



10月24日 小平市立第七小学校5年生「総合的な学習時間(地域交流)」に招かれ、「高齢者の方たちとちょっと言葉のキャッチボールをしたいので、話すタイミングや方法について」等いろいろな質問に答えて来ました。

社会福祉法人多摩済生医療団

多摩済生園
多摩済生ケアセンター

東京都小平市美園町3~12~1 ☎ 042(343)2291 <http://www.tama-sai.jp>

多摩済生病院

内科・外科・整形外科・形成外科・呼吸器内科・循環器内科
皮膚科・婦人科・精神科・リハビリテーション科

042(341)1611

済すくうたすける うれえる なすなしとける 生うむうまれる いきる いかすそたてる